

令和7年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢興譲館高等学校

スクール・ミッション	「『興譲』の精神」（自他の生命を尊重する精神、己を磨き、誠を尽くす精神、世のために尽くす精神）のもと、高い志を持って、積極的に地域や世界の他者と協働しながら、果敢に挑戦し新しい価値の創造に向け貢献していく、次代のリーダーとなる人材を育成します。
目指す生徒像	『いのちを尊び、新たな価値創造の志を持ち挑戦する生徒』 1 自他の生命を尊重し、調和のとれた人間性豊かな生徒 2 謙虚に学ぶ姿勢を身につけ、高い志を持ってその実現に向けて努力する生徒 3 次代のリーダーとして、自立し、世のために尽くそうとする生徒
重点目標	1 自立に向けた生徒指導の展開 2 学力の向上 3 探究型学習・SSH事業等の推進 4 進路指導の充実に向けた職員体制の強化 5 魅力ある開かれた学校づくり 6 学習環境の整備と健康・安全教育の推進 7 校務の情報化の推進 8 健康管理、働き方の改善と教職員倫理の醸成

【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

番号	評価項目	具体的方法と指標・基準	今年度の成果と課題	達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価
						意見・要望・評価等
開1	・自他の生命の尊重と違いを認める態度の育成 ・学校生活における自主的・自律的な活動の推進を推進し、果敢に挑戦する態度や社会貢献の態度の育成 ・探究型学習の成果等に基づく社会貢献の態度の育成 ・「自己効力測定尺度」の活用や有機的な情報共有により生徒理解を深めるとともに、家庭との連携を深め、健全で充実した学校生活の支援	・自他の生命を大切にしながら、周囲と良好な人間関係が構築できるよう教育相談・適応支援を推進する。 ・生徒自治会構成員として自らを一人一人に持たせ、自主的・自律的に諸活動に挑戦する態度を育成する。 ・いじめ防止アンケート、スクールサイン、面談により、いじめを早期に把握する。いじめが発生した際は、実効性のある再発防止策を講じる。 ・「興譲館3DOC」の育成を図り、各種行事等を通して、生徒の自己効力の高揚と「興譲の精神」意識の高揚に努める。 ・いのちの講話及び各種講演会等とおして、いのちの教育を推進する。	○いじめ防止アンケート結果は第1回・2回ともに重大事態にあたるものはなかった。全職員で共有し学年団の先生方を中心に適切に対応した。 ○各行事や各種委員会活動において、担当生徒のアイデアを最大限尊重しながら、生徒たちが主体的に活動することができた。 ○いのちの講話をおして、自己理解や悩み解消につなげることができた。 ○生徒アンケートにおいて、タイムマネジメントについて肯定的回答が10ポイント以上増加した。	B	・いじめ防止については学年団や生徒課を中心に更にもっと細やかに取り組んでいく。 ・「青切符」制度導入に伴う交通ルール遵守の徹底。 ・学年会等で生徒の状況を共有し、個々の生徒がタイムマネジメントでできるような指導の工夫を図る。 ・重大事故の防止に向けて、交通安全ルールの徹底と規範意識の醸成に努める。	・DX化、IT化について、出欠の管理、時間割作成ソフト、いち早く取り入れることでより便利になると感じる。生徒保護者等から見られるようになるとデジタルサイネージの必要性の議論も繋がる。現代ビジネスの世界において、エリートはデザインの世界へ進む。感性を若いころから磨くことが大事。興譲館では、著名な講師を呼び、感性を磨く機会を作っているのだから大事にして欲しい。興譲館生徒の自転車マナーが大変良い。先生方の働き方改革について、まだ働き方改革が不十分だと感じる先生方が3~4割いる。継続的に取り組んで欲しい。
2	・学力の3観点（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」）の育成に合う教科指導力の向上 ・「興譲館3DOC」を目標に据えた「自己効力」を高める指導について、実践と評価の推進 ・一人一台端末等のICTを活用した学習指導の工夫・改善 ・現行の教育課程を評価・検証し、工夫・改善	・生徒の自己効力を高めるため、多様な学習活動を多様な評価の実践を行い、評価Aのための指導方法・学習レベルの明確化を図る。 ・主体的に学ぶ姿勢の育成と、一人一台タブレット端末の授業での有効活用を行う。 ・シラバスを活用し、各科目の学習内容・評価方法等について生徒・保護者へ周知する。 ・生徒による授業評価（年間2回）をおして、教員が自身の授業を振り返り、授業改善に取り組む。	○「自己効力測定尺度」について、全職員が正しく理解する機会を設定できた。 ○教科担当者から生徒へ学習内容・評価方法等の説明を行った。 ○校内の授業研究をグループごとにも実施できた。 ○現行教育課程を評価・検証し、見直しに向けて、カリキュラム委員会で協議を行った。	B	・教科ごとに評価方法等の研究をおして指導法のブラッシュアップを図る。 ・一人一台タブレット端末を活用した授業の普及・拡大に努める。 ・現行の教育課程を分析・総括し、見直しの議論を進める。	・学校の方向性をしっかり考えておかないと時間だけ浪費する。これからの学校運営協議会では時間の大部分をメンバーからのご意見をいただく場となることと思う。今までと運営のやり方を大きく変える必要がある。学校運営協議会に基づいて、山形県のトップを走る都市型コミュニティスクールとして頑張ってもらいたい。今まではどちらかといえば保護者・卒業生にターゲットとして意見をもらっていた。これからは、産業界に通ずる方から米沢の進むべき方向性について聞くなどしてキャリア教育を行い、明日の米沢や置賜を担うような人材を育てる方向へ進んでいくだろう。時代に合せてこれからは先頭を走って欲しい。
3	・「ESDエキスパート制」による探究型学習やSSH事業を通したキャリア形成と一体化した進路指導体制の構築 ・「ESDエキスパート」を目標に据えた「自己効力」を高める指導について、実践と評価の推進 ・一人一台端末等のICTを活用した学習指導の工夫・改善 ・現行の教育課程を評価・検証し、工夫・改善	・電子メール、Google Classroom等の活用し、各種イベントへの積極的な参加を促す。 ・ESDエキスパートコースリーダー会議を適宜開催し、生徒の研究情報の共有と課題の確認を行う。 ・SSH事業や探究活動を学校公式SNSやSSH通信をとって積極的に発信し、各事業の魅力化と拡充を図る。 ・生徒研究発表会のオンデマンド配信体制を構築し、他校からのフィードバックを指導の工夫・改善につなげる。 ・実施している事業内容に関して、各職員へのヒアリングを行う。 ・理数探究科、国際探究科特有のカリキュラムの共有と指導法のノウハウを構築する。 ・ユネスコスクールキャンディデートとしてグローバル人材の育成を推進する。	○2年SSRで研究型毎のガイダンスを実施したり、外部連携に関する校内体制を整備することで、自走を促し探究の質の向上を目指した。 ○海外研修の実施に向け、研修先や研修内容に関して旅行業者・訪問施設等と連絡調整をしながら、教育課程の中に効果的に位置付けて実施することができた。 ○オンラインを活用し、韓国、アメリカとの交流を行い、異文化理解や海外留学等の意欲の醸成につなげた。 ○電子予備費から探究活動支援を頂くことができ、探究関連の諸活動の充実を図ることができた。 ○地元の小中学生を対象に「米沢興譲館探究フェスティバル」を開催し、科学の楽しさやSDGsの大切さを伝えることができた。（来場者：未就学児6人、小学生39人、中学生約16人、保護者66名）	A	・探究活動をさらに充実させ、個々の生徒の進路実現とキャリア形成につなげていく。 ・物価上昇の影響もあり、SSH予算が例年以上に逼迫しており、予算の調整が必要である。 ・SSHとユネスコスクールの事業の趣旨や目的を整理し、本校の探究活動体系を確立する。 ・SSH中間評価ヒアリングでの改善点の見直しを図るべく、「米沢興譲館 評価におけるグランドデザイン」の作成に取り組む。	・地元の経済は厳しい状況。SSH探究活動について、今はどちらかというところと科学系・環境系が主流と感じる。探究活動はその場限りの活動にしてはほしい。将来地元経済に貢献してほしい。地元経済の活性化のためにも若いころからのリーダーの育成が必要。工業・農業・観光でも地元の経済が活性化しなければ地元が育たない。危機感を覚えている。興譲館高校からリーダー人材を育成し、社会系探究活動も大いに進めて企業や経済への貢献する人材を育ててもらいたい。熊鷹問題について、危険性がある通学環境の安全を徹底してもらいたい。
化4	・探究型学習やSSH事業を通したキャリア形成と一体化した進路指導体制の構築 ・高い志を育み、難関大学をはじめとする志望校合格に向けた進路指導の充実 ・進路希望の実現に向けた進路指導力や、3年間を見通した系統的な指導方法について研究を深めるとともに、多様な選抜方法への組織的な支援体制の充実	・KITメンバーを早期から集団化し、挑戦する志を育成し、学力の向上を図る。 ・KIT、友子会とともにグルーピング指導による横のつながりを構築する。 ・友子会を継続することによって志望者、受験者を増加させる。 ・学年団と連携して、生徒面談を実施する。 ・進路室常駐教員を中心とした面談体制を整備する。 ・探究課、教務課と連携を図りながら、キャリア教育実践プログラムの改訂を行う。 ・全職員での指導を拡充し、学校推薦型選抜・総合型選抜出願生徒のサポートを行う。	○友子会は、2学年は6月から、1学年は11月から開始し、KITは、1・2学年とも5月から開始し、適宜集会等を行い意欲を喚起した。12月にはKIT対象の進路講演会、数学・英語の講習を実施した。 ○入試研究会、分析会の案内を周知し、積極的な参加を呼び掛けた。 ○チャレンジ志向よりは安全志向となる傾向が見える。高い目標に向かう姿勢を醸成したい。 ○共通テスト「情報I」への指導については情報科の先生にご協力をいただき、朝学習や放課後講習を活用して指導を行った。 ○学校推薦型・総合型選抜を中心に小論文・面接について全職員体制で支援した。 ○PS、SSR等の取組を基に志望理由書を作成する生徒もおり、探究的な学びがキャリア形成につながっている。	B	・1学年のKITメンバーの選出にあたって、スタディーサポートの結果を効果的に活用する。 ・友子会の解説やミーティングの実施方法について検討が必要である。年によって差が出ないような指導体制の構築が必要である。 ・模試成績を活用した面談では、実効性のある学習方法をKITや友子会の生徒に提示する。 ・学校推薦型・総合型選抜では、共通テストや科目試験を課すところが増えている。志望理由の深まりはもちろんのこと、学力向上も含めての指導を継続する必要がある。 ・学校推薦型・総合型選抜の活用について、安易な出願とならないように学年団と協力しながら引き続き指導していく。	・先生方の働き方改革について、調査書や要録の作成に時間がかかっているところを少しでも改善できたら業務に支障がなくなると思う。今年度、興譲館高校の生徒がボランティアとして上杉まつりに参加できたことが良かった。地元の経済に繋がる。継続して地元の経済を盛り上げることができたらと思う。
5	・各種評価及び学校評議員会を有効に活用し、学校運営の改善 ・保護者、地域自治体、地域住民との協働による社会に開かれた教育活動の推進 ・生徒の活躍、教育活動の成果をより活発に発信する広報活動の工夫と充実	・各種行事をおして、生徒の自己効力の高揚と「興譲の精神」の意識の高揚に努める。 ・生徒の将来への励みとなる講師を選定し、記念講演会の充実を図る。 ・同窓生の人的資源の活用を図る。 ・生徒による年2回の授業・学校生活評価、保護者による学校評価、及び教職員による自己評価を実施し、授業や教育活動の改善に取り組む。 ・年2回実施する学校関係者評価委員会、SSH運営指導委員会をおして、各専門領域からの指導・助言・評価内容を本校教育活動改善へ反映させる。 ・学校ホームページ、フェイスブック、Instagram等を活用し、迅速な情報発信に努める。	○創立記念式において、本校同窓生による講演会を実施した。これから社会に出る生徒にとって、有意義な内容の講演であった。講師のこれまでの進路選択の内容も入れながらの講演内容であり、生徒の進路意識の高揚の一助とできた。生徒の意識改革につなげることができた。 ○さくら連絡網により行事のご案内や学校生活の連絡など、有効活用ができていた。 ○HP更新を進めている。今後さらに進め、内容をアップしていきけるようにしたい。 ○本校のInstagramで、本校の教育活動を広く発信したことで、フォロワー数が倍増した。	A	・創立記念講演会における本校同窓生の人材活用を今後も継続する。 ・「さくら連絡網」やInstagramを効果的に活用し、生徒の活躍や学びの成果に係る情報発信を継続する。 ・教育振興会総会や中学校教員対象学校説明会、米沢興譲館探究フェスティバル等を活用し、次年度も本校の特色ある教育活動を広く公開する場面をつくっていく。	
進6	・県教育局と連携し、トイレの洋式化やエアコンの整備を推進 ・各種検診や健康調査、教育相談等を活用し、健康安全管理能力の育成 ・支援を要する生徒に対する教育相談体制の充実や外部機関との連携の充実 ・自転車ヘルメット着用推進に向け、生徒自治会が中心となって関係機関と連携し更なる啓蒙	・創立140周年記念事業準備委員会や外部組織と連携し、史料室の整備を進める。 ・配慮を要する生徒の情報を職員間で早期に共有し、チームとして対応に当たる。 ・教育相談、適応支援を推進する。スクールカウンセリング予定表を全校生徒に配付し、保護者への周知を図る。 ・自転車ヘルメット着用推進モデル校として、興譲館や交通街頭指導などで着用の呼びかけを行う。 ・様々な場面を想定した「避難訓練」を効果的に実施し、生徒の防災意識と実践力を高める。 ・学校安全の日を中心に、毎月の安全点検を実施する。 ・清掃強化週間を年間4回設定し、美化委員会による清掃点検を実施する。	○本校教員のみならず、同窓生や有志の生徒の協力を得ながら、書籍の整理を進めた。 ○「さくら連絡網」を利用した災害発生時初動訓練を実施した。 ○熱中症対策として、4月からの注意喚起、行事担当者による事前対策強化、クールダウン場所の確保等を通じて、全校生への意識づけができた。 ○特別な支援を要する生徒については、教職員共通理解のもと、適切に対応できた。 ○「カウンセリング通信」を3回発行した。	A	・図書館の史料や書籍以外の史料について整理し、史料室整備事業を完了する。 ・現行の健康観察は、毎日の回答率が非常に低いため、さくら連絡網を活用した形態を検討し、回答率の向上を目指す。 ・熱中症への対応の仕方、協力体制等については、早い段階で全職員に提示し対応する。 ・水曜日の清掃をなくしたことによる火曜日と木曜日、定期評価前後の清掃を丁寧に行う指導が必要である。	
7	・県統合型校務支援システムや「さくら連絡網」を効果的に活用し、業務改善と情報共有の推進 ・「GG」システムの円滑な運用を図るとともに、それにリンクした「米沢興譲館教職員ポータルサイト」の充実を図り、職員間の情報共有の推進 ・出欠管理の電子化、ペーパーレス化、デジタル採点ソフトの活用等を推進し、業務の効率化	・「さくら連絡網」を全生徒・保護者・職員が登録し、効果的な運用と活用を図る。 ・県立学校職員勤務管理システムのパイロット校として、職員のニーズに応じた体制整備を目指す。 ・時間割ソフトの導入、出席簿電子化の推進、校務支援システム・デジタル採点ソフトを積極的に活用し、業務の効率化を図る。	○県立学校職員勤務管理システムの導入に伴い、米沢興譲館高校ポータルサイトを立ち上げた。職員の動向をリアルタイムで確認できるようになった。 ○「さくら連絡網」は、緊急連絡や災害対応にも効果をあげている。 ○会議資料のペーパーレス化が実現した。 ○県教育センター職員を講師として、生成AIの活用法について研修会を行った。 ○デジタルサイネージを活用した時間割の提示を行った。	A	・米沢興譲館ポータルサイトを効果的に活用し、業務改善を推進する。	
理方8の	・教職員の心身の健康管理の徹底 ・県働き方改革プラン、部活動活動方針等を踏まえ、不断の業務改善 ・校内倫理委員会を有機的に活用し、コンプライアンス遵守と教職員倫理の醸成	・職員会議や日常の職員打合せの中で、適時的に編成修正について触れる。 ・必要に応じて管理職による職員面談を行い、職員の心身の健康を保持し、活き活きと働ける職場環境をつくる。 ・部活動方針に基づき、適正に部活動を実施する。 ・校務分掌の分担化・分散化・明確化を図り、業務への負担感を軽減する。	△各月の時間外在校等時間が月80時間を超える教員数は、R6と比較して増加した月が多かった。 △令和7年9月に実施したストレスチェックによると、仕事への量的負担は全国平均より高い。 △全ての部で顧問を複数配置しているが、それが時間外在校等時間の減少につながっていない。	B	・働き方改革プラン第II期の目標である「半期における時間外在校等時間の月平均が80時間を超える教員0人」を達成できるように、教職員一人ひとりの健康管理とマネジメント力を高める取組が必要である。	

自己評価、及び学校関係者評価に基づく改善点や検討事項等、他	1 学力の向上、探究型学習のさらなる推進 ・観点別評価をおした個々の生徒の資質・能力を伸ばす指導と評価の充実 ・確かな学力の育成に向けた指導力向上に資する研修等の充実 2 令和7年度学校経営計画指導を受けての改善、地域との協働・研究成果の普及及びユネスコスクール事業と国際教育の推進 3 理数教育、国際教育を軸とした多様な教育活動の見直しと整理 4 進路指導体制の充実・強化 ・大学入試制度の変更に関する情報収集 ・学校推薦型・総合型選抜等、多様な入試制度への指導体制の構築 5 校務の情報化の更なる推進 ・校務用タブレット端末を活用した業務改善 ・情報機器の効果的運用
-------------------------------	---